

# “ふじのくに”<sup>しみん</sup>士民協働 事業レビュー結果

(健康福祉部)

事業	16	事業名	認知症総合対策推進事業費
----	----	-----	--------------

## 1 基本情報

実施日／班名	9月7日 第3班	時間	10:20～11:46
担当課名	長寿政策課	事業費	31,600 千円

## 2 レビューの結果 施策目的に対する効果の程度

結果	一定の効果がある	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	3
			一定の効果がある	32
			あまり効果がない	4

## 3 県民評価者の意見（レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された意見）

### (1)見直し・改善策

<b>目的・指標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コールセンターについて、位置づけ、PR 方法、1 日あたりの件数、運営日数・時間含め「目的」を明確にしたほうがいい。</li> <li>・目標値が曖昧なので、もっと明確にしたほうがいい。</li> <li>・専門委員が指摘したように、成果指標は介護度の進行率や認知症の進行といった、健康な人以外のデータでないと事業の成果とは言えない。</li> <li>・認知症の方の人数の把握は、認知症対策の施策を進める上で必要です。実データがなければ、目標を設定することも、そのためにどれだけの事業を行えば十分なのか曖昧なものとなってしまいます。</li> </ul>
<b>対象・範囲</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の方とお付き合いもできない方々の発掘が、これからは大切です。</li> <li>・認知症対策が必要な方の把握が必要です。</li> <li>・NPO、自治会のほか、特に民生委員と連携して実態を把握する必要がある。</li> <li>・現在の認知症予備軍の人や、病院に通っている人などをもっと把握すべき。</li> <li>・相談をするにあたり、時間外で相談をできる場所を増やしていただきたい。場所によっては、インターネット、CM も活用してはどうか。</li> <li>・コールセンターを拡充する必要があります。また、多くの人の認知度が上がるよう努力してください。</li> <li>・介護マークを周知する取組をスーパーマーケット等にも広げる必要がある。</li> <li>・認知症患者とその家族の実態をより正確に把握する必要があります。</li> <li>・どのようなニーズがあるのか、調査、分析がはっきりできていない。</li> <li>・一定の効果があると思うが、認知症の方の数が推定での予算設定だと納得できない。また、市町の連携ができていない。もう少し、各市町から情報収集をし、正確な数字を表してほしい。</li> <li>・認知症サポーターを集めるのに、学校や会社などでの広報活動をもっと積極的に展開することで、認知症のことをさらに理解してもらえるのではないかな。</li> <li>・研修会は、依頼があれば出向くのではなく、もう少し小規模で、町ごと、あるいは公民館ごとに、定期的を開催することはできないか。</li> </ul>

事業内容

- ・自治会で推進しているS型デイサービスは、希望者のみの参加となっていますが、地域の方々の見取りが一番大事なため、家に閉じこもりの方を外に引っ張り出す手段としても、このS型デイサービスはもっともっと活動を盛んにしていけるといいですね。
- ・仕事をしている家族が相談をしたい時、どこに相談すればいいのか、より分かりやすいシステムを構築していただきたい。
- ・市町との連携の方策について、県として具体的に何をやっているのかが分かりにくい。県の中に、市の駐在員を置くことはできないのか。
- ・県、市町、民間の役割分担が不明確なので、明確化を図ってください。
- ・市町（調査）、県（提言、分析）、国（施策・助成等）の役割分担を明確にする必要があります。
- ・行政は情報の提供（シートの作成）を最優先に。IT、GPSの活用も一考してください。
- ・「こういうものがあればよいな」という待ちの姿勢ではなく、福祉・介護に関わる各層を調査（意見聴取、現状把握）して、基本的なものに絞込み、重点化することが必要である。
- ・高齢化社会で、本当に深刻な問題で身近なものなので、よりサービスを受けやすいようにしていただきたい。
- ・全国的には立川市の自治会の先進的な事例などもあるので、そうした事例を研究してください（新書で出版されています）。
- ・コールセンターは不要です。
- ・コールセンターの充実が、県として一番やらなければいけないことではないか。
- ・介護人材の確保を支援する体制を強化してください。
- ・認知症の方の家族をサポートする事業（認知症サポートセンター、コールセンターの運営など）を拡充してください。
- ・認知症予防に関する広報のあり方を改善する必要があります。
- ・市町や民間の支援施設等に対する助成のあり方について、より効果的にできるよう、市町等との連携を強化すべきです。
- ・認知症サポーターの数が、市町の人工に対して偏りがあります。
- ・十分な数の社会福祉士や介護支援専門員等があれば、認知症コールセンターは必要ないのではないか。必要なら、家族会に入ると思います。
- ・市町の意見は、各家庭の意見要望ではないでしょうか。そのような要望に対応する事が、効果的に予算を使うことになると思います。この辺の資料をまとめ、効果が出たかどうか判断すべきです。
- ・最近、JRの踏切で電車を止めた事例があります。家族に巨額の賠償金を請求されました。このように、一家族では対応できない事への助言や、助成等の検討段階になってきている。
- ・少子高齢化に伴い、認知症の方は益々増加するが、予算の大半はアフターケアに向けられている。認知症をいかに少なくするか、非常に大変だと思うが、運動や考えさせる学習事などの活動を含め、予防に力を入れたほうが効果的ではないか。（アルツハイマーに対する効果は疑問ですが）
- ・介護マークは、介護の家族や施設の方だけでなく、必要な時に自由に借りられるように、役所や駅、公園、病院等、公的な場所に多くの用意ができないか。
- ・地区の民生委員の方々が、苦勞されているので、市町に民生委員の補助者も必要である。
- ・身体障害者マークを付けた健常者が、身体障害者用の駐車場に車を止めるなど、介護マークの悪用が気になる。配布方法を検討してほしい。
- ・困った時には市町に相談に行くので、県はやはり市町の状況をきめ細やかに把握することが必要。
- ・コールセンターに来ている家族の会の方に相談するのと、地域包括支援センターに相談するのと違いがあるのかもしれないが、地域包括支援センターの機能強化のため、家族会の方にセンターに入ってもらおうようにすればいいのではないか。
- ・認知症には、様々な種類があり、見た目では認知症とは思えない人も多くいる。まずは、認知症に対する理解度を深めることが重要である。

- ・近所単位での見守り体制をしっかりと作ることが大事です。
- ・県職員は、様々な数値（データ）だけではなく、直接市町民と会う事で実態の把握をしてください。人と人との関わりによって、本当の意味でサポートに繋がります。
- ・県民だよりにコールセンターの案内を掲載しても、新聞を取っていない人や、近くに置いてある所がない人もいます。また、場合によっては老人看護でコールセンターの意味が分からない人もいるかもしれない。
- ・市や町は「こういう内容がありますよ」というような情報を全く教えてくれない。だから相談したくても、どんな内容をどこで相談すればよいか市民はほとんど知らない。
- ・認知症にならないための生涯推進を推進していくことが必要です。
- ・一人暮らしの老人が増えている中、いかに認知症を早期発見するかが大きな課題である。したがって、地域の住民の協力が得られるための施策が必要です。
- ・認知症サポーターのことをもっと周知できるよう、事業の中で工夫してください。
- ・民間企業とも連携して、PR活動や相談窓口の場所、各種サポーター制度を浸透させていくことが必要です。一般の人は「介護」と「認知症」の問題はあまり区別がついていません。
- ・地域包括支援センターの目的、位置づけを明確にすべき。現状では誰のために、何をしているか分かりません。加えて、個人情報やセンシティブ情報は除いて相談内容が見えるようにしてほしい。
- ・県民が「何が相談できるのか」が分かれば、相談者も増えます。
- ・県としての役割、市町としての役割の地域、地元住民の役割と分担して事業を進めていけたらいい。
- ・高齢者が自分の存在感を持てるような施策を打ち出して認知症の発生を減少させる。公園の草取りや清掃等の協力をお願いしてもいい。こうしたことに一律の金額を支払っている現在の事業費のうちの一部を役立てる。
- ・実態を把握することが重要です。コールセンター等への連絡を実態把握に役立ててください。
- ・介護マークを首から下げている人は見たことがない。障害者用トイレに、車いすマークと同じように介護マークを付けたらいいか。
- ・早期診断テストを、病院などではなく、もっと早い段階から個人的に気軽に受けられるようにすれば、各自、自覚することができるようになる。またその際、自分で心がけられることのアドバイスもプリントに添えてあるのがベスト。認知症の気づきを県レベルから市町レベル、さらに個人レベルに下げる。
- ・コールセンターで受けた相談を今後の施策に活用できるように、相談内容の集約を行うべき。
- ・在宅介護、公的福祉、地域包括支援をバランスよく組み合わせることが必要ではないか。
- ・コールセンターは非効率ではないか。電話で密な相談を行うのは限界がある。電話という開けた窓口を設置したからには、数多くこなすものだと思っていたが、1日1件とは思わなかった。
- ・認知症の患者さんを抱える家族にとって、自宅から相談できるコールセンターは大きな心の支えになるので、相談日や相談員を増やすなど、まずはより多くの家族や患者さんの相談に乗れるための体制を整え、それからコールセンターの存在を宣伝することが必要である。また、相談窓口を一元化し、どこで相談できるか、どのような相談をできるかをはっきりと県民に明示することが必要です。
- ・認知症コールセンターは、地域包括支援センターや医療センター、認知症の人と家族の会と大きく3つあると伺った。しかし、コールセンターの対象者は認知症本人ではなくその介護をする家族です。現在、在宅介護や老人ホームに入っている人も多いと思うが、中には高齢者夫婦（もしくは1人）のみの暮らしもあると思います。それこそが潜在的にある認知症予備軍や認知症と自覚していない人々ではないかと思われますので、介護をする家族の悩みを聞く窓口だけでなく、高齢者本人が訪ねられる場所を設けることに大きな意味があります。また、会話をすることで認知症の進行の抑制などにもつながるのではないのでしょうか。

## 事業内容

- ・ 国立の機関で海馬の萎縮についてデータを取って、それを予防に役立てている県（愛知県）もあります。2つのことを同時に行う運動などを「元気広場」のような限られた場所だけでなく、もっと公民館レベルの身近なところで体験できるようにできないか。（この段階での症状を遅らせることは、後の人生の生活レベルをとて質の高いものにすることができます。）
- ・ 県として地域包括支援を促進しようとしていることは分かったが、家族による在宅介護、公的福祉による介護と比べて、責任の所在が曖昧である。
- ・ 認知症コールセンターを設けるということ自体は施策の推進に寄与していると思う。しかし、相談日時が限定されすぎている。介護の相談や日常生活の相談を受けるのであれば、相談日が週に3日、1日当たり5時間しかコールセンターが開かれておらず、また相談員が2人だけというのは不十分である。
- ・ 高齢化が進行している中で、認知症の患者が増加していく事は確実に、細かなサービスも必要になってきます。
- ・ コールセンターの相談件数を見ると利用数が伸びていない事から、何らかの原因があり、これに対する改善が必要です。ただ件数は0ではないので、役には立っていると考えられる。
- ・ 認知症予備軍者等の実数を明確にする事で、見えてくるものがあるのではないかな。
- ・ 今後、様々なサービスや取組に関する広報を増やして、県民の認知度を上げてほしい。
- ・ 総合的な対策の前に実態把握が必要です。それによって明確な目標ができ、目標に見合った予算配分ができるだろう。
- ・ 市町に対して昔と今の違いや状況の変化などを具体的に説明することが県に求められている。
- ・ 静岡県は「長寿」をアピールポイントにして事業を促進してほしい。
- ・ 認知症の発症を遅らせることが可能になるような事業を進めてほしい。
- ・ コールセンターはバラつきがあり、どこに相談すればよいか分からない。一元化するべきではないか。
- ・ 「認知症の発生を減らす」、「発生したら悪くならないようにどうするか」、「発生してどうしようもなかったら、その収容先をどうするか」、この3つが大事ではないか。発生を減らすというのは、例えば町内会での草取りとかを外部に頼んでいるのなら、老人にもできるので、危ない場合は警察も確認しながらやってもらって、終わったら弁当やビール1本でも渡せば喜んで町のためになったと帰る。ほかにもコールセンターを使って、こういうことが起きたようだよと連絡する係の設置などをしないと金のばら撒きとなる。もう少し細かくやった方がいい。

## (2)その他の意見

- ・ S型デイサービスに関わっている者です。私も2年前まで認知症の女性を診ていましたが、包括支援センターの利用は余り考えませんでした（何より、知りませんでした）。姑は80歳を過ぎたころより認知症の症状が出てきて、町医者に相談したところ「年をとれば、誰だってそのような症状が出てくるものだよ」と言われがっかりしました。何の対策にもならなかったのです。その当時は、私は会社勤めで、S型デイサービスに関わったのは1年半前です。認知症の人と家族の会に入り、家族の方も一緒にS型デイサービスに関われば、何より認知症に対する関わり方も分かったと思います。
- ・ S型デイに参加していれば、民生委員との関係も濃いですから、見落とさない。一人ぼっちの人を作らない事が、何より大切な事です。
- ・ 平均的な一般県民からすると、実際に自分の周りに認知症高齢者等がいないと、なかなか県の認知症対策についての理解が十分ではないようです。今回のレビューにより、大いに勉強になりました。
- ・ 国、県、市町、地域、民間業者、家族、それぞれの役割をどうするのか。県として、効果的な事業費になることを望みます。
- ・ 認知症本人とその家族が、より安心して生活が送られる社会になることを望みます。
- ・ 施策内容が多いため、全ての理解は難しいですが、今後も必要なことなので頑張ってください。
- ・ 少子高齢化が進行する状況では、予算が膨大になるのではないかと心配です。



- ・「認知症対策のイメージ図」は、ある意味“理想像”で、実現性が乏しい。
- ・専門委員からの意見もあったが、「地域」をどう捉えるかが重要です。
- ・健康寿命が増えるということは、認知症人口も増えるのが当然である。
- ・市町に任せるとのことであるが、小さな市町ではかえって認知症に関する相談をしづらい点もあります。
- ・県が、地域に対してどのように具体的な指導をしているか明確にしてください（説明できてない）。
- ・最初に本県の地域の交流から生まれた介護マークが、全国に普及していくのは誇りです。
- ・認知症発症後の対策が多いように思います。
- ・私の母は、93歳で特養にお世話になっています（要介護5です）。きっかけは交通事故で、リハビリをしているうちに体調が悪化し、お世話になるようになりました。各家庭の事情にも様々あるように、各市町にも様々な事情があると思います。
- ・市町がどのような事を要望しているのかが分からない。
- ・認知症患者を家族が24時間見守るのは、無理ではないでしょうか。
- ・認知症対策の施策はどうやって決定するのか。理想と現実の差を問題点とし、その問題をどう解決するのかを施策（ウェイト付けする）であろう。したがって、その施策に対し、具体的に何をやるか、費用はどうかを徹底的に検討し、決定すべきである。
- ・施策（取組）と事業名の内容が、どう結びついているのかよく理解できない。
- ・若年性アルツハイマーは3年まで進行を遅らせると聞いたが、その後は単に認知症に対する処方と同じなのでしょうか。
- ・医療関係では個別に講座を持っているようですが、県との関係はどうなのでしょうか。
- ・市町・近所の見守りがきちんと出来ているとは思えない。また、施設に入っている方も行方不明になっている。施設内でも見守りが出来ていない理由は何ですか。
- ・実際に男性が女性を介護している人を見たことがあるが、介護マークをつけている人は今の所見たことがない。
- ・自分の身に降りかかってないので分からないが、本当に困った時にどこにどういう相談をしたらよいのか、日ごろのアンテナをもっと高くしていこうと思う。
- ・コールセンター、キャラバンメイト、地域包括支援センター等の言葉が、今まで意味が分からなかったが、今回の事業レビューで理解できた。事業レビューに参加してよかった。
- ・本件は、とても重要かつ時間的にも待ったなしである。また、私も含め、親の心配もあるが、心配している人は企業勤務者が多く、時間がなく、なかなか相談できない。
- ・重度の方が集まる施設は、全体を把握する中で今後どうすべきか施策を決めてください。
- ・地域の見守りの重要性が増す中、認知症サポーター講習会等はとても意味のあることです。（自分も参加した経験からとても意味があった）
- ・オレンジリングをしている人を街中で見たことはなく、あれは経費の無駄使いである。
- ・施策を進めて行く中で、様々な問題が生じると思うので、その度に問題を改善して行ってほしい。
- ・介護を受けていない方に対して何かを行うことはないのか。介護弱者もいるはず。機会均等にできると良い。
- ・“地域”の連携が必要ということは理解できるし、大変納得できるが、どの“地域”だって高齢化が進んでいるはず。平均年齢が高くサポートできる方が少ない地域もあるはず。地域内格差も生まれかねない。そういった点を県はどのように考え、もし生まれた場合、どのようにして是正するのか。
- ・地域の理解を深めたいという県の方針ならば、理解推進に力を入れてもいいのではないかと。
- ・健康寿命が長ければ長いほど県民の幸福につながる、との説明でしたが少し疑問が残ります。
- ・年を取って、認知症になりやすいのは、よく考えたら出掛ける所がないという状況にあること。まず、第一に考えたのが、みんなが生きがいを持つこと。私は教育として漢方薬の研修に年3回ほど県立大学に行く。1回300人から700人位が参加している。そのうち7割が女性。男性は1度出席すると、その後なかなか出ない。
- ・認知症サポーターという言葉を初めて聞いた。どんな活動をしているのか。紹介してほしい。